

第43回 国際福祉機器展 H.C.R. 2016 報告

1 | オープニングセレモニー

多くの来場者や後援・協賛団体のご関係者などにお集まりいただいたなか、全国社会福協議会 斎藤十朗会長の開会宣言により、第43回国際福祉機器展 H.C.R. 2016は会期3日間の幕を開けました。開場前に催された『くす玉オープン』は、斎藤会長、H.C.R.海外コーディネーターのベン・アポロ・ラスムセン氏〔欧州担当〕、トム・ボーチャディング氏〔北米担当〕、高井康行本会理事長などによって執り行われ、展示会がスタートしました。

・日時 10月12日 (水)9：50～ ・場所 東2ホール前



2 | 17か国・1地域からの527社・団体が出展

出展社数に関しては前年度より5社増となり、国内の企業・団体が457社・団体（うち、新規出展は54件）、海外からは16か国・1地域より70社・団体（うち、新規出展は16件）が出展し、特に、海外からはイタリア、ノルウェー、韓国が新たな出展を行いました。

総面積51,380㎡の会場に、各国からの20,000点を超える福祉機器、介護用品が総合展示されました。

国名	社数
オーストラリア	1
カナダ	1
中国	5
デンマーク	8
フランス	2
ドイツ	7
日本	457
イタリア	1
韓国	1
メキシコ	1
オランダ	2
ノルウェー	1
スウェーデン	7
スイス	1
台湾	14
トルコ	1
イギリス	6
アメリカ	11

3 | 15回目の出展を迎えた企業・団体に対して感謝状を贈呈

H.C.R.では今年も、本展示会への15回目の出展を迎えられた企業・団体に対する感謝状と記念品を手配いたし、該当する国内20社・団体（うち、5社は欠席。海外企業の該当はなし。）を、展示会初日の10月12日（水）に、オープニングセレモニーが催されたガレリア・東2ホール前のステージにお招きして贈呈式を行いました。

●15回出展感謝状贈呈企業（国内20社）

- ・アイシン精機(株)

・(株)ウェルパートナーズ

・(株)エースシステム

・NDソフトウェア(株)

・M&Rる〜む

・広和(株)

・(株)サンコー

・シーキュービー(株)

・新光産業(株)

・(株)諏訪田製作所
- ・セコム(株)

・(株)タイカ

・竹中エンジニアリング(株)ヘルスケア事業部

・公益財団法人 東京都福祉保健財団

・(株)東経システム

・(株)東和モータース販売

・(株)日本コンピュータコンサルタント

・富士通(株)

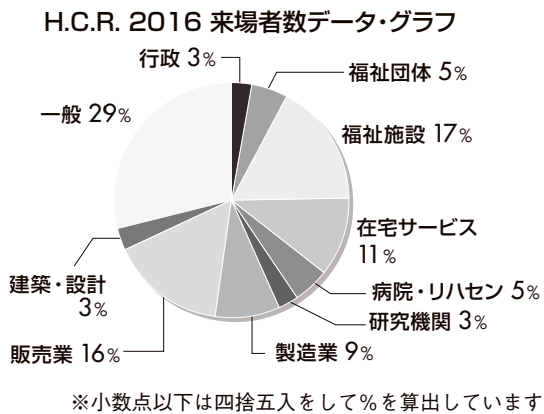
・(株)富士データシステム

・マツ六(株)

※社名五十音順

4 | 来場者数は112,752人にのびりました

第43回国際福祉機器展H.C.R. 2016の来場者数は、3日間の通算で、のべ112,752人にのぼり、来場者の分類では、一般の方が29%と例年同様に最も多く、続いて福祉施設の17%、販売業の16%、在宅サービスと製造業の11%という順で、昨年度に比べて福祉施設関係者の割合がやや増加する結果となりました。



5 | 出展製品

【出展製品別一覧】

移動機器		
1	手動車いす	51
2	車いす関連用品	65
3	電動車いす	39
4	電動三輪・四輪車	12
5	自転車	3
6	介助車	11
7	歩行器・歩行補助車	50
8	杖	38
9	ストレッチャー等移動器具	5
10	移乗補助機器	22
11	床走行リフト	27
12	固定式・据置式リフト	22
13	介助・歩行補助ロボット	20
14	障害者用自動車運転装置	10
15	車いす等用福祉車両	13
16	入浴用特殊車両	2
17	福祉施設等業務用自動車・エコカー	4
ベッド用品		
18	ベッド	28
19	マットレス・床ずれ防止製品	49
20	サイドテーブル	10
21	介護用シーツ	11
22	ベッド用品（その他）	21
入浴用品		
23	浴槽	17
24	入浴用チェア	27
25	滑り止め用品	17
26	浴槽台	12
27	入浴用リフト	11
28	入浴用品（その他）	17
トイレ・おむつ用品		
29	ポータブルトイレ	23
30	便器・便座	8
31	防臭剤・消毒剤	8
32	トイレ関連用品	19
33	おむつ関連用品	9
34	自動排泄処理装置	8
衣類・着脱衣補助用品		
35	衣類	22
36	靴	14
37	帽子・保護帽・かつら	1
38	着脱衣補助具	3
コミュニケーション・見守り機器（聴覚・視覚・その他）		
39	補聴器	5
40	緊急通報・見守り装置	26
41	障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	13
42	障害者用AV機器	2
43	拡大読書器	3
44	活字文書読上げ装置	1
45	福祉電話、FAX、携帯会話補助器	4

46	視覚障害者用誘導システム	2
47	コミュニケーション関連ロボット	8
48	コミュニケーション・見守り機器（その他）	22
建築・住宅設備		
49	スロープ	22
50	手すり	33
51	エレベーター	2
52	段差解消機	13
53	階段昇降機	12
54	建築・住宅設備（その他）	16
リハビリ・介護予防機器		
55	歩行等訓練機器	26
56	リハビリ用教材・機器	36
57	筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	32
58	口腔ケア用品	14
義肢・装具		
59	義肢・装具	16
日常生活支援用品		
60	自助具	22
61	障害者スポーツ・レクリエーション用品	8
62	介護関連用品	32
63	日常生活支援用品（その他）	30
介護等食品・調理器具		
64	食事用具・食器	16
65	キッチン	3
66	調理器	4
67	高齢者・障害者向け食品	9
福祉施設・住宅環境設備・用品		
68	施設建築、施設用床材・壁材	7
69	自然エネルギー・省エネルギー技術機器	1
70	再資源・水浄化処理機器	1
71	洗濯機・乾燥機、掃除機、脱臭器	8
72	いす・座位保持／立ち上がり補助用品	17
73	家具、テーブル、洗面台	21
74	火災報知設備、自動消火設備	3
75	防災・避難用品	8
76	自家発電・蓄電装置	1
77	介護職員用衣類	8
78	福祉施設・住宅環境設備／用品（その他）	12
感染症等予防用品		
79	空気清浄器、加湿器、消毒器	13
80	感染症等予防用品（その他）	12
在宅・施設サービス経営情報システム		
81	福祉事業関係コンピュータシステム	41
出版・福祉機器情報		
82	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト	29

6 | 障害者の権利の擁護をテーマに開催した国際シンポジウムは満席に

H.C.R.では、わが国と海外に共通した福祉・介護分野の課題について、諸外国から招いた専門家による現地の取り組み状況や抱えている問題に関する報告を基に考察を行う国際シンポジウムを、毎年展示会と併せて開催しています。

H.C.R. 2016では、わが国で、「障害者の権利に関する条約」の締結を受けた「障害者差別解消法」の制定や「障害者雇用促進法」の改正のほか、2020年の国内でのパラリンピック大会の開催が決定するなど、障害者の権利擁護と自立や社会参加の一層の促進に向けた動きがさまざまな形で進みつつある状況を踏まえて今年のシンポジウムのテーマを設定しました。

障害者の権利を擁護し、自立と社会参加を進めていくためには、日常生活上のあらゆる場面におけるバリアを取り除き、包括するといった視点から、生活場面、雇用・就労、教育など、さまざまな項目にわたるあり方

を検討し、整備していくことが求められますが、H.C.R.では、2007年に障害者の社会参加と就労をテーマに欧州のソーシャルファームの当時の現状と課題を考察して以来約10年が経過したことを踏まえて、ノーマライゼーション思想発祥の国であるデンマークから講師を招き、障害者の権利擁護や社会参加の促進をめぐる変化と最新の動向に関するレポートなどによるシンポジウムを開催し、わが国の今後の関連の取り組みを展望するうえでの考察の場としました。参加者は会場の定員に達し、253人にのぼりました。



H.C.R. 2016国際シンポジウム 10月13日(木) 13:00~16:00

障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために ～ノーマライゼーションのこれまでとこれから

○講師 [シンポジスト]

- ①デンマーク／ハナ・スティグ・アンダーセン氏：
デンマーク社会福祉・内務省 障害者局長
- ②日本／末光 茂氏：社会福祉法人 旭川荘理事長、
川崎医療福祉大学特任教授、医学博士

○チューター

近藤 純五郎氏：一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、
弁護士、元厚生労働事務次官

○会場：会議棟6F 605～608会議室



7 | H.C.R.セミナー

H.C.R.では例年に引き続き、介護・福祉機器の展示と併せ、福祉サービスを利用されている方々やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者、企業関係者などの来場者に対して、関連する制度の動向や課題、福祉サービスの質の向上や施設の経営をめぐる最新の情報などを提供する場として、H.C.R.セミナーを開催しました。

いずれのセミナーにも多くの関心が集まり、一般来場者をはじめ、社会福祉施設の役職員、介護支援専門員、ホームヘルパー、社協役職員など専門職も含めたのべ3,312人が参加し、それぞれのテーマに対する理解を深めました。

(1)一般、福祉利用者・家族向け

① 一般家庭の介護で腰痛にならないための基本技術 ～ボディメカニクスの理解と活用

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月12日(金)10:30～12:00
講師	青柳 佳子 氏 浦和大学短期大学部 介護福祉科 特任教授

② 介護ロボットの活用で未来を拓く

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月13日(木)10:30～12:00
講師	五島 清国 氏 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部長

③ はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー (会場：東6ホール 特設会場A)

「基本動作編」「自立支援編」「住宅改修編」の3編をさらに以下の10のテーマに分類し、3日間にわたりセミナーを開催しました。



12日(水)	11:00～12:00	トイレ・排泄用品	NPO法人日本コンチネンズ協会 牧野 美奈子 氏
	13:00～14:00	住宅改修	首都大学東京大学院人間健康科学研究科准教授 橋本 美芽 氏
	15:00～16:00	入浴機器	福祉技術研究所(株)代表取締役 市川 洵 氏
13日(木)	11:00～12:00	ベッド	福祉技術研究所(株)代表取締役 市川 洵 氏
	12:30～13:30	リフト等移乗用品	福祉技術研究所(株)代表取締役 市川 洵 氏
	14:00～15:00	杖・歩行器等補助用品	公益財団法人武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子 氏
	15:30～16:30	車いす	公益財団法人武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子 氏

14日(金)	11:00～12:00	福祉に役立つ一般製品	東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野准教授 巖淵 守 氏
	13:00～14:00	福祉車両	国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局第二自立訓練部 肢体機能訓練課自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 主任理学療法士 吉田 由美子 氏
	15:00～16:00	自助具	ヒューマン代表 岡田 英志 氏

④ 高齢者むけの手軽な日々の食事

～総菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ

高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも、大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などですませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの総菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、毎日の食事を、簡単に、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる食事のつくり方と実演にてご紹介しました。

当日配付したパンフレットでは、レシピと食事づくりのポイントをわかりやすく説明して掲載したほか、過去4年間のレシピを集約したレシピ集の販売などと併せて、「特設会場C」の特設ステージにおいて、会期中の毎日13:00～14:00の時間帯に「高齢者の料理講座」として開催しました。

日時	10月12日(水)～14日(金)の各13:00～14:00の時間帯
講師	今 寿賀子 氏 虎の門病院 栄養部部長 押田 京子 氏 虎の門病院 栄養部副部長

(2)福祉職向け

① 福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる工夫とアイデア

会場	会議棟6F 605～608会議室(A、B会場分割講義)
日時	10月12日(水)13:30～16:00
発表事例	《A会場／高齢者施設における工夫事例》 (1)コミュニケーションロボットで見えてきた介護の未来～「PALRO」導入の効果と課題 (2)地域と施設の協働 ～ 買い物支援の取り組み (3)人材確保対策室の取組 (4)人的、物的介護手段の融合による"床から抱え上げない"移乗介助 "してあげる"介護から"良くする"介護へ (5)オランダ研修旅行から学んだこと 司会進行：湯川 智美 氏 社会福祉法人 六親会 常務理事 《B会場／障害者施設における工夫事例》 (1)「寝たきりにさせない」障がい者施設での10年間の取り組み～機能訓練の導入と国際福祉機器展による育成について ～ (2)TEACCHプログラムを活用したアプローチ (3)BCPの実践 (4)障がい児への理解を深める地域の保育所との交流保育 (5)地域の特性を活かした地域貢献活動 司会進行：久木元 司 氏 社会福祉法人 常盤会 理事長

② 環境と福祉の統合と社会への定着

～2020年東京大会に向けた取り組み

会場	会議棟7F 701～702会議室
日時	10月14日(金)10:30～12:00
プログラム	基調講演：パラリンピックが後押しする ソーシャルインクルージョンの進展 炭谷 茂 氏 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長、 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長 講演①：福祉と環境をつなぐスポーツ精神 ～リオのパラリンピックを視察して 崎田 裕子 氏 NPO法人 持続可能な社会を作る元気ネット 理事長 講演②：障害のある人の社会参加をひろげるために ～障害者権利条約を基本設計図に、パラリンピックを新たな好機に 藤井 克徳 氏 日本障害フォーラム幹事会 議長／ NPO法人 日本障害者協議会 代表

③ 福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント

会場	会議棟6F 605～608会議室
日時	10月14日(水)14:30～16:00
講師	小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

(3)企業関係者向け

① 介護ロボット開発の最新動向と今後の展望

～北欧のユーザー・ドリブン・イノベーションからみる普及実現に向けた取り組み

会場	会議棟6F605～608会議室
日時	10月14日(金)10：30～12：00
講師	植村 佳代 氏 株式会社 日本政策投資銀行 産業調査部 副調査役

8 | H.C.R.特別企画
(常設展示・相談・デモンストレーション)

① アルテク講座2016～身の回りにあるテクノロジー (アルテク)で創る豊かで楽しい生活 (東6ホール 特設会場B)

多くの人の身の回りにあるテクノロジー (アルテク)を用いる事で、障害のある人の生活が大きく変わります。たとえば、印刷物を読めない人でも電子書籍や電子新聞であれば簡単に読む事ができます。音声が使えないためにコミュニケーションに不自由を抱える人もスマートフォンでチャットを楽しみ、アプリを入れれば音声で会話することも可能です。そのほか、鉛筆を持てないなどの理由でメモをとれない人はICレコーダやデジカメを上手く活用すれば記録がとれるなど可能性は大きく広がっています。

このセミナーでは、誰もが日常活用しているスマートフォン、タブレット、パソコン、ICレコーダ、デジカメなどのICT (情報通信技術)製品を、障害のある人の生活や学習支援に活かすアイデアとともに紹介しました。



【講座テーマ】

10月12日 (水)	1. Windowsパソコンのアクセシビリティと応用ーアルテクを用いた障害のある人の生活支援 2. スマホやタブレットのアクセシビリティー肢体不自由の人がスマホやタブレットを使いこなす 3. アルテクを読み書きなどの学びのツールに変えるーアルテクを用いた発達障害や認知障害のある人の生活支援
10月13日 (木)	4. 身の回りにあるテクノロジー(アルテク)が支援技術に変わるー高齢者や障害のある人の生活支援 5. 障害者差別解消法とアルテクの意味ー合理的配慮の1つとしてのアルテク利用 6. 障害者雇用とアルテクー障害者雇用現場でのアルテク活用の実際
10月14日 (金)	7. スマホやタブレットを生活支援ツールに変えるーアルテクを用いた肢体不自由のある人の支援のポイント 8. 視覚障害のある人のスマホ・タブレット活用ーアルテクを用いた視覚障害のある人の生活支援 9. アルテクを利用した重度肢体不自由や重複障害のある人の生活・コミュニケーション支援

② 高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

～マイサイズ!あなたに合わせたモノ展 (東6ホール 特設会場A)

福祉機器には、高齢者や障害のある人の生活を支援するためにさまざまな工夫があります。その一つが、「高さ」、「太さ」、「大きさ」、「明るさ」、「重さ」などを「使う人に合わせる」という工夫です。

2016年4月に施行された「障害者差別解消法」では、「合理的配慮」をしなければ、それは差別になります。合理的配慮、すなわち「個別配慮」には、「使う人、つまり、あなたに機器を合わせる」といったことが含まれてきます。

そこで、今回このコーナーでは「あなたに合わせたモノ」を、それぞれ衣食住に分類して製品を、展示しました。

- ・衣…… (調節できる靴、フリーサイズのズボン、パジャマなど)
- ・食…… (自分の手に合わせられるスプーン・フォーク、大きさの異なる器など)
- ・住…… (高さ調節ができるテーブルや椅子、高さの調節ができる杖、手すりなど)

(企画・監修)公益財団法人 共用品推進機構

③ 障害児のための「子ども広場」(東6ホール 特設会場C)

子どもたちと一緒に来場されたご両親が、広いホールのなかを子ども向けの機器を探し歩く負担を軽減するために、H.C.R.では今年も「子ども広

場」を会場内に設置して該当する製品を集中展示したほか、福祉機器の利用や療育に関する相談コーナーや、保育士が常駐する「ひとやすみコーナー」などを設けました。

また、新企画「現在も未来も大切です!子どもの住宅改造 (肢体不自由・発達障害)相談コーナー」や「子ども広場で広げよう!! 子どもの車いすトレーニング編」なども設けました。

a. 福祉機器展示コーナー

会期中3日間にわたり、親子が参加して試せる子ども向けの福祉機器の常設総合展示と製品説明を行いました。

<展示製品> いす・カーシート、食事用具・食器／衣類・靴、車いす、バギー・歩行器、学習機器／コミュニケーション機器など



b. 相談コーナー (無料、療育相談と福祉機器相談)

3日間にわたって相談員2名を配置し、11：00～12：00、13：00～14：30、15：00～16：00の3回無料で相談に応じました。

c. 現在も未来も大切です!子どもの住まい (肢体不自由・発達障害)相談コーナー

日程：10月12日 (水)～14日 (金)の各日14：00～16：30に専門職による相談を行いました。
(a～cの運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

d. ひとやすみコーナー

保育士が常駐して、広場のおもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者のみなさんと子育てについてお話する場として設けました。
(dの運営協力：東京都社協保育士会)

④ 福祉機器開発最前線 (東3ホール 特設会場C)

企業や研究機関の開発、試作状況などの最新の情報提供や紹介を行う本コーナーでは、今年は、経済産業省のロボット介護機器開発・導入促進事業や厚生労働省の障害者自立支援機器等開発促進事業の対象製品を含む計10点の最新の機器の展示とデモンストレーションを実施しました。



アロン化成株式会社	キューレット【排泄介護用品】
株式会社エクシング／ソフトバンクロボティクス株式会社	健康王国レク for Pepper
クラリオン株式会社	服薬支援ロボ KR-1000A
サンヨーホームズ株式会社	寄り添いロボット【転倒の察知、事故の軽減】
株式会社システムフレンド	Mobile Motion Visualizer 鑑(AKIRA)【関節可動域測定装置】
Triple W Japan株式会社	DFree - ディーフリー【排泄予知ウェアラブルデバイス】
兵庫県立福祉のまちづくり研究所 ロボットリハビリテーションセンター	排泄支援装置
株式会社ブイ・アール・テクノセンター／ミユキエレックス株式会社	介護施設向け見守りシステム装置・Mi-Ru(ミール)
国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学	音声つづやきシステムによる気づきプラットフォーム
株式会社マイクロブレイン	知的障害のある方の就労支援ソフト だれでもワークプロ

※企業名は五十音順

⑤ ふくしの相談コーナー (東3ホール 特設会場D)

作業療法士や技師などの専門家が来場者の自助具や福祉機器に関わる相談に無料で応じました。

(協力：日本作業療法士協会、大阪府肢体不自由児者協会大肢協ボランティアグループ自助具の部屋)

⑥ 被災地応援コーナー (東1ホール内 小間番号1-07-05)

災害に見舞われ、復興に取り組みながら製造・生産活動に取り組むセルプ (障害者就労支援施設)の製品を販売しました。